

# 旧植田家だより

KYU-UEDAKE INFORMATION

Vol. 20

2014年4月発行

特集『植田家だより』20号記念  
だよりのあゆみ

新連載  
三会所だより 予告編

連載コラム  
「落穂拾い—今東光の薫風—(十四)」



## 展示のご案内



企画展

# 八尾の鉄道

～鉄道のある風景とくらし～

2014年 3月6日(木)～5月18日(日)

○休館日＝火曜日(4月29日(祝)・5月6日(祝)は開館)、  
3月24日(月)、4月30日(水)、5月7日(水)・8日(木)

○開館時間＝午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)  
※ただし最終日は午後4時まで(常設展は午後5時まで)

【観覧料】一般200円、高校・大学100円、中学生以下は無料

主催：NPO法人HICALI 協力：JR西日本、近畿日本鉄道

写真と資料でふり返る、八尾の鉄道と風景。

八尾市指定文化財  
**安中新田会所跡 旧植田家住宅**  
〒581-0084 大阪府八尾市植田町1-1-25 TEL/FAX 072-992-5311

【交通案内】  
○JR大和路線「八尾」駅下車、南出口より東へ徒歩約3分  
○近鉄大和線「八尾」駅から近鉄バス藤井寺駅前行  
「JR八尾駅前」バス停下車、南東へ徒歩約5分  
※当施設には駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。

JR八尾駅は2014年(平成26年)5月14日で  
開業125周年を迎えます。

※ここで見られる写真は、一部展示しているもののほか  
含まれています。



企画展

## 「八尾の鉄道～鉄道のある風景とくらし～」

2014年3月6日(木)～5月18日(日)

※休館日はP15をご覧ください

次回 通常展「大和川付替え関連展示」(2014. 5/21～6/30)

旧大和川の歴史と旧植田家住宅の変遷をパネルと資料でたどります。

# Contents

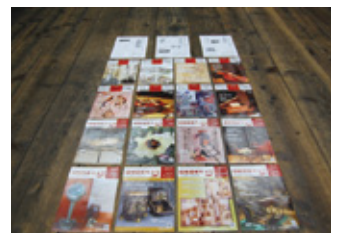
- 4 特集『植田家だより』20号記念  
だよりのあゆみ
- 6 新春企画  
こどものためのお茶会
- 7 お笑いだけじゃない・・・  
旧家で楽しむ落語会
- 8 新連載  
三会所だより 予告編
- 10 研究の一と：ファイル8「数物の食器」
- 11 連続講座2「ミルシルキクスル～昔の暮らし編～」
- 12 なにわの伝統野菜栽培日記<sup>⑩</sup>
- 13 講座「今東光～『悪名』のアサくない話～」&映像に見る八尾
- 14 コラム「落穂拾い - 今東光の薫風 - (十四)」
- 15 旧植田家住宅のご案内



## 表紙写真

### 「旧植田家だより 1号～19号」

旧植田家住宅の情報を発信するニューズレター『旧植田家だより』は、2009年8月の第1号発行から今号で20号となる。本誌ではその歩みを振り返る記事を4・5ページに掲載。写真は土蔵1にて撮影。表紙の変遷がひと目でわかる。



※『旧植田家住宅だより』のバックナンバーはホームページからダウンロードができます。  
<http://kyu-uedakejutaku.jp>



特集 『植田家だより』 20号発行記念  
**だよりのあゆみ**

平成21年（2009）8月、安中新田会所跡旧植田家住宅の開館から3カ月が経ち、記念すべき『植田家だより』（正式名・安中新田会所跡旧植田家住宅だより）の第1号が発行されました。現在まで19号が発行されているこの季刊誌は、旧植田家住宅に関する様々な情報を、年に4回のペースで発信しています。

【ここが違うよ第1号・2号・3号！】

第1号では、八尾に新たに誕生した歴史名所として安中新田会所を紹介する記事をトップに掲載しました。現在の『植田家だより』と大きく違っているのは、何といっても「手作り」だったという点です。編集にはパソコンを使いますが、印刷は片面ずつモノクロの印刷機（輪転機）で印刷し、刷り上ったA3サイズの用紙をスタッフ全員で2つ折にする作業をしていました。時には印刷の向きを間違えて裏表で上下が逆さまに…ということも。記事内容も手書き



『植田家だより』第1号～第3号



記念すべき『植田家だより』第1号

の部分もあり、そんな変遷をたどって現在の『植田家だより』があります。

もうひとつの違いは、見ての通り、新聞の形態をとっていました。この新聞風のデザインは、今の冊子体の『植田家だより』にも継承されている部分があります。また新聞っぽく広告も掲載していました。

違いを見比べるときりがありませんが、情報の内容や質はそのまま今も変わらずお届けできるよう努力しています。変わらないといえば、現在も鋭意連載中の記事「なにわの伝統野菜栽培日記」と4コマ漫画「マンジークン」は、第1回から掲載されています。久しぶりに読み返してみると、マンジークンの変貌ぶりにびつくり！中身は全く変わっていませんが…。



第1回掲載の「マンジークン」



「栽培日記」も、その名の通り日記ですが、日記ってこんなに長く続けられるんだなあと関心してしまいます。一冊にまとめるのと農作物の栽培マニュアルができそうです。

### 【新しく進化した第4号】

現在の冊子体となったのが、平成22年(2010)4月に発行された第4号からでした。当初は、いつも印刷をお願いしている株式会社シーズクリエイト(弓削町)の「エコ綴じ印刷」(ホッチキスの針を使わない製本)のPR用冊子にもなっていて、印刷費も負担して頂いていました。これによって『植田家だより』は、B5版フルカラーへと生まれ変わり、ページ数も16ページに増えました。

さて中身はというと、これまでの様式を継承しつつ、表紙も決まって、より多くの情報を発信できるようになりました。見開きページを使って地図を掲載したり、今回のような特集記事が堂々と掲載できるようになりました。

また第5号からは、ひっそりと「植松のまち・ひと」が始まり(不定期連載中)、第7号からは人気のコラム「落穂拾い」今



フルカラーのマップも掲載(第4号)



第12号からタイトル文字が変わった(上は第4号)

東光の薫風」の連載がスタートしました。ちなみに、タイトルロゴは「KYU・UEDA KEJUTAKU INFORMATION」とローマ字表記になっているため、外国人の方も多く冊子を持って行かれたと思います(中には一切、英語はありません)。

### 【さらに進化する第12号】

平成24年(2012)4月発行の第12号からは、「旧植田家だより」のタイトル文字の変更とともに、中身のデザインも一新されました。といってもその違いは微妙です。ので、ぜひバックナンバーを手に入れて「間違い探し」気分で、その違いをみつけてください。第12号は、旧植田家住宅の開館3周年を記念した記事「桃栗三年柿八年(ももくりさんねんかきはちねん)」が掲載され、まさに節目の号となりました。

その後も、現在にいたるまで日々、試行錯誤を繰り返す『植田家だより』ですが、今後より充実した内容をゆつたりとお届けして参りたいと思います。そのためにも、ぜひ皆様、旧植田家住宅まで足をお運びください。素敵な便りが待っています。

(編集者)

# こどものための お茶会

2014年1月19日(日)

福田和浩(参加者)

この企画がすっかりお気に入り入りの6歳の娘。何と今年で3回目の参加。保育園でもお茶会をしていたようで、今回もすぐく楽しみしていました。それに対して、初めての付き添いの私は：「お茶会」ってだけで、ちよつとドキドキしながら旧植田家住宅へ。

11時からの2回目に申し込んでいたのですが、建物に入ると、1回目を終えた子や2回目の子がいて、結構にぎやか。机では、大豆を塗り箸でつまんで、小皿から小皿へ移すゲームをしていて、私も参加。すでに遊んでいた小学生のお姉さんたちが、ホイホイ移しているの、「あゝこんなも



なかなか難しい大豆運び

のかゝ」と思ってトライしてみたら：これが難しい！滑る滑る。思った以上に塗り箸強敵！「これは難しいなく、うちの娘にはちよつと：」って横を見たら、真剣な顔をしながら、結構上手に移している!?「そうかく去年もしたから、慣れているのか」と気づいて、こちらも真剣に練習。ま、それ



でも難しかったです：

そして、本番のお茶会。座布団の上に、子どもたちと親が座って、先生登場。さっきまでの表情とはまた違って、一気に緊張した面持ちに。私も慣れない正座と雰囲気緊張気味。作法を簡単に教えてもらって、さあどうぞ。「えゝそれでするんかゝ」と思いながらも、子どもたちは、先生に確認しながら順番に隣の人へ。そして娘。何となく覚えているようで、覚えていない作法を、先生もやさしく教えてくれて何とか隣へ。私もそれをホツとして見ていたら、今度は自分の番！大人として平静を装いながらも、心の中ではドギマギしながら、私も何とか隣の子へ。

子どものためのお茶会なので、そこまで緊張することもなし、先生やスタッフの方も優しいので、楽しく参加できたのですが、親としては細かい作法もしっかり！と思ったり。でも、いつもと違う場所に、「お茶会」という非日常。こういう場の空気自体を感じることも、貴重な経験になったと思います。来年は親子とも、もう少し余裕をもって参加できるかな？

# 旧家で楽しむ

素人寄席・  
天満天神の会  
繁盛亭・落語家入門講座修生の会

お笑いだけじゃない……

# 落語会



唐



一月二十六日、旧植田家住宅の座敷では、落語を楽しんで昔のくらしを学ぼうという趣旨で、「素人寄席・天満天神の会」に出演していただき「落語会」を開催しました。会場には、ごどもからお年寄りまでが参加し、今回は当施設学芸員による「落語一口メモ」のコーナーが最初にあり、嘶に登場する昔の道具の解説を植田家にある実物を交えて聞きました。

さて、解説が終わり、まず最初の演目は、天神亭みち草てんじんていさんの「初天神」。予定していた出演者が急ぎよ出られなくなり、みち草さんがその代わりを務められました。初天神の賑わいとそれを楽しむ風変わりな親子を演じました。

続いて天神亭てんじんていさんによる「壺算」は、水壺つぼを買いに行く二人の男と店主の可笑しなやり取りが見所で、お客さんの笑いの壺もよくとらえていました。嘶に登場する、

おおこ（担い棒）や水壺については、先の一〇メモでバッチリ覚え、より身近に楽しむことができました。

天神亭岩塩がんえんさんの「いかけ屋（壊れた鍋やお釜などを修理する仕事）」は、現代ではあまりなじみのない職業ですが、いかけ屋と悪ガキの動きが特徴的で、その情景が目には浮かんでくるようでした。

トリを務めるのは、会長の天神亭ひれ克かさん。ドタバタの「へつつい盗人」に会場は笑いの渦に包まれました。とくに前列で見ていた小学生の男の子の笑いつぶりに、こちらも嬉しくなりました。

終演後は、皆さん上機嫌で植田家うゑだけを見て、帰られました。

（旧植田家住宅スタッフ）

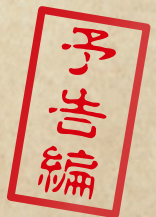
- 天神亭みち草
- 「初天神」
- 天神亭酔千
- 「壺算」
- 天神亭岩塩
- 「いかけ屋」
- 天神亭ひれ克
- 「へつつい盗人」



出演者の方々（出演は右上・下、左上・下の順）

次号より  
連載開始！

# 三会所だより



新連載「三会所だより」は、現在施設として公開されている大和川関係の新田会所のうち、安中新田会所跡旧植田家住宅（八尾市）、

鴻池新田会所（東大阪市）、加賀屋新田会所（大  
阪市住之江区）の三つの会所が、毎号それぞれの活動や日常の様子をお伝えするコーナーです。新田会所に関する情報や大和川付け替えの記事なども掲載していく予定です。

宝永元年（一七〇四）の大和川付け替え後、旧大和川筋には多くの新田が開発され、会所が設けられました。かつては、会所の建物も数多く残されていたと考えられますが、時代とともに取り壊され、現在、大阪府下には先の三カ所を残すのみとなりました。この貴重な歴史遺産について広く知ってもらい、次代に継承しようと、各施設では様々な取り組みを行なっています。また、この三会所の間では、互いに連携をとりながら、日々その方策を練っています。

## ◎ 加賀屋新田会所

かがや

加賀屋新田会所跡は、現在、大阪市住之江区南加賀屋の加賀屋緑地（公園）として公開されています。加賀屋新田会所は、宝暦四年（一七五四）大阪淡路町の両替商である加賀屋甚兵衛が造営し、この周辺の地域は延享二年（一七四五）に干拓されました。

敷地内には、書院・茶室（「鳳鳴亭」・旧居宅・土蔵などの建造物のほか、小掘遠州風の回遊式庭園（「愉園」）が現存し、大阪市内で唯一の江戸時代の新田会所遺構・文化遺産となっており、平成十三年には大阪市指定文化財に指定されています。施設の管理は大阪市が行なっていますが、住之江区の見所や歴史・自然などを案内するボランティアグループ「住之江のまち案内ボランティアの会」が、その案内活動や勉強会を通じて、施設の普及に努めています。ぜひご利用ください。

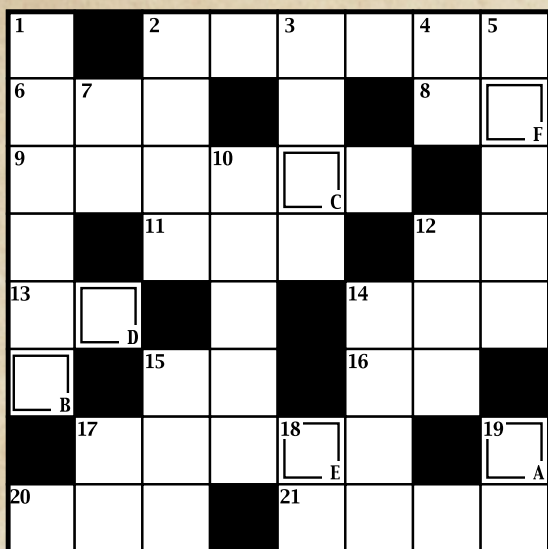
## ◎ 鴻池新田会所

こうのいけ

鴻池新田会所は、大和川の付け替え後、豪商鴻池家が開発した新田の管理を行なった場所です。会所敷地は国の史跡で、本屋、屋敷蔵といった古建築群は重要文化財になっています。今回は、六月までのイベントをご紹介します。ぜひ足をお運びください。

- ◎ 4月19日（土）、5月31日（土）、6月29日（日）  
鴻池新田会所コスプレフェスタ共催（コスジョイ）
- ◎ 5月3日（祝・土）野点のだけ
- ◎ 5月17日（土）〜6月8日（日）  
コーナー展示「新田会所の薬箱（仮題）」
- ◎ 5月18日（日）蓄音機コンサート
- ◎ 5月24日（土）歴史講座「淀川の水とくらし（仮）」
- ◎ 5月25日（日）史跡ハイキング  
「旧大和川をたどる〜菱江川・玉串川〜」
- ◎ 6月7日（土）歴史講座「河内平野の治水史」
- ◎ 6月8日（日）史跡ハイキング「古地図見て歩き」





安中新田会所跡 旧植田家住宅の場所について15ページをご覧ください。また、左記のクロスワードを解くと、当施設について分かるようになっていきますので、ぜひ挑戦してください。なお、プレゼントはございません。

## ◎ 安中新田会所

やすなか

次号より連載を開始する「三会所だより」ですが、手探りの状態で進めて参りますのでみなさま、どうぞ温かくお見守りください。なお、今回は予告編ということで各施設の概要をご紹介します。

### タテのワード

- 河内の特産物。安中新田のおよそ8割はこの畑でした。
- 内部の心配事・もめごと。内患。
- 安中新田の管理はヨコ17が〇〇〇〇に行なわず、植田家が任されました。
- かいていると蜂に刺される!?
- 植松にある私塾。5代目・植田一郎が深く関与していました。
- 隣の客がよく食べているもの。植田家の庭にもあります。
- 植松周辺のまちあるきマップの愛称。(『植田家だより』5号にも掲載)
- ⇄左岸
- 床の間などの壁に掛けて愉しむロール式の書画。
- 安中新田は代々植田家によって〇〇〇されていました。
- 生まれ。
- 使わなくなった物や大事な物を保管しておく昔の倉庫。
- 普段は「つし」などに置いておく、かまどで大活躍の燃料。

### ヨコのワード

- 宝永元年(1704)の大和川付け替えの中心人物。
- 仲直りすること。まだまだヤング!?
- 大阪人はコレが嫌い
- 宇宙人から見ると私たちは?
- 庭にあって世話のかかるも。
- えっ、「つし」じゃないの!?!もー。
- ブタは「ブー」、ヤギは「〇〇」。
- 三会所のうち住之江区にあるのは〇〇〇新田会所。
- ⇄負ける
- 尺貫法に基づく長さの単位。六尺(約18.2m)
- かつて安中新田はここのお寺の領地でした。
- 現在、旧植田家住宅は指定管理者のNPO法人〇〇〇が管理運営しています。
- 低温で焼成した陶器。素焼きに絵や文字が入ったものもある。



場所：住之江区南加賀屋4-8  
 交通：地下鉄「住之江公園」駅下車  
 徒歩15分・市バス「南加賀屋四丁目」下車徒歩5分  
 休園日：月曜日、年末年始  
 開園：10時～16時30分  
 入場料：無料



場所：東大阪市鴻池元町2-30  
 交通：JR学研都市線「鴻池新田」駅  
 下車、南東に徒歩5分  
 開館：10時～16時  
 休館日：月曜日、祝日の翌日(土・日を除く)  
 観覧料：大人300円、小・中学生200円  
 お問い合わせ：06-6745-6409(電話)  
 06-6744-7498(FAX)

# 研究 のーと

Investigation  
Note

## ファイル8 かずもの ひゃっき 「数物の食器」

旧植田家住宅 学芸員  
谷口 弘美

今から五十年ほど前までは、結婚式や葬式、法事などの諸行事は各家庭の自宅で行なうことが多く、食事の用意は各家でしなければならなかった。そのため、たくさんの食器が必要となり、数物の食器を購入するか、または隣近所で貸し借りを行なうことがあった。

江戸時代後期から安中新田会所の支配人を代々務めた植田家には様々な人が訪れたと考えられ、旧植田家住宅には普段使い用の食器のほか、来客用、冠婚葬祭などで使用したと思われる一〇〇三〇客組の数物の食器がたくさんのこされている（写真1）。山水などの風景が色鮮やかに絵付けされた皿、青色の釉薬で文様が施された（染付の）茶碗、草花の文様が蒔絵で立体的に表現された吸い物椀な

ど、食器の種類は様々である。これらの食器（主に陶磁器製）のほとんどが型を用いて造られているので、大きさは、ほぼ均一だが、ひとつひとつ手描きで絵付けがされているため、同じ模様でもそれぞれに微妙な違いがある。また、これら数物の食器の中には金継ぎ（※）が施されているものがある（写真2）。一定の数が揃ってはじめて用をなす数物の食器が、大事に使われていたことが伺える。

これら数物の食器は、使用后、反故紙（書き損じなどで不用になった紙）や新聞紙などで一枚ずつ丁寧に包まれ、木箱の中に納められた（写真3）。木箱の側面には、中に入っている食器の名称（種類）・数量、所有者の銘などが墨書されているので、土蔵などで保管されていても、ひと目で中身がわかる。

今回紹介した数物の食器は、単体では高価な美術品ではないが、人をもてなす際に使われた大切な道具であり、往時の植田家のくらしを語る貴重なものである。

※金継ぎ

割れたり、欠けたりしている部分を漆などで接着し、継ぎ目に金・銀・白金などの粉を蒔いて飾る修理法のこと。



写真3: 反故紙や新聞紙で包まれた食器



写真2: 金継ぎが施された皿



写真1: 土蔵にて展示中の「数物の食器」

# ミルシルキクスル

## ～むかしのくらし編～

第1回(12/8)「防災頭巾を作ろう！」

第2回(1/12)「昔の道具を使ってみよう！」

第3回(2/9)「昔のくらしはエコだらけ!？」

「ミルシルキクスルく昔のくらし編」は、昔のくらしを「見て、知って、聞いて、体験する」全3回の連続講座です。

第1回は「防災頭巾を作ろう!」ということで、当施設職員が講師となって、バスタオルを利用した防災頭巾作りに挑戦しました。講座では、子どもでもわかる「防災」をテーマにした今と昔のお話と、現在お店で買うことのできる防災グッズを通販番組のように紹介し、使い方などを説明しました。「へえ、こんなグッズあるんや」と、参加者のお母さんの反応も上々でした。

さて防災頭巾作りですが、皆さん持参のバスタオルを使って、器用に作り上げていきます。完成!ということ、最後は記念撮影をして、第1回の講座は無事終了しました。



防災頭巾を制作中



こんな感じです!

第2回の講座は「昔の道具を使ってみよう!」。当日はインフルエンザの影響で、親子一組だけの参加となりました。そのお二人

と一緒に、まずは展示室で開催中の「昔のくらしと道具く箱・ハコ・はこ」展をワークシートを使って見学してもらいました。

主屋と土蔵では、あちらこちらに常設されている展示品の中から「箱の道具探し」に挑戦してもらい、制限時間内ですべての道具をみつけ出しました。聞くところによると、植田家住宅のリピーターで、道具の場所熟知しているとの事でした。この際にも昔の道具を体験してもらいましたが、今回のメインは石臼(ひき臼)を使った黄な粉作りでした。

初挑戦の石臼に苦戦するも、楽しく取り組んでもらい、趣向を凝らした電動粉ひき機(ミルサー)との勝負も石臼の圧勝で、昔の道具とくらしの知恵に感動の講座でした。



長持の中を拝見



石臼 VS 電動粉ひき機

さあ第3回の講座ですが、残念ながら参加者が0名につき、不開講となりました。また機会があれば開講したいと思います。

(旧植田家住宅 スタッフ)

# なにわの伝統野菜 栽培日記

No.20

金時人参、収穫！



収穫の様子

【忘れてた！】

年末の田辺大根フェスタで嬉しい結果をいただき、ホッとしすぎてしまったのか、大事なことを忘れていたことに気が付いた。そう、本来なら10月に植えなければいけないウスイエンドウ（豆ごはん用）の種をすっかりまき忘れていたのだ。えらいこっちゃ、今は2月!!。もう遅すぎ〜！

畑企画では、毎年ウスイエンドウを育て、収穫後に植田家のかまどで豆ごはんを炊いて試食するのが、大きなイベントのひとつ。深い自己嫌悪…だが、そうそう落ち込んでもいられない。手当たり次第、ホームセン

ターや苗屋さんに問い合わせてみるが、別の豆はあっても、この時期ウスイエンドウを取り扱っているお店は、なかなか見つからない。だが、やっと一件、大阪市内の店で売られている事がわかった。ホッ♪

次の日、私は、朝イチでそのお店にいた。こうして、何とか手に入れた大事な苗。遅れを取り戻すために、週に一度のドーピング（液肥）は欠かしていない。さてさて、今年の植田家自慢の豆ごはんのお味はいかがなものか。



忘れられたウスイエンドウ

【コレ、なんぼ〜?】

2月の終わり頃、すっかり立派になった金時人参の収穫をした。身を切るような寒さの中、数名の子どもが参加し、土の中に深く伸びた真っ赤な人参を掘り出すのに、一汗かいた。

そして、井戸水できれいに泥を落とした人参を見た来館者の女性が、「えらい立派やな〜。コレ、なんぼ?」



売り物ではございません  
m(\_ \_ )m



穫れたての金時人参

「いえいえ、売りもんではございませんから（笑）」

確かに、今年の人参の出来は最高。途中で股割れもせず、まっすぐに伸びて太い。完璧な形だ（かなりの親バカです）。ましてや掘りたてとなれば…。もし、コレがここで売っているなら私も絶対に買います。

\*旧植田家住宅では、野菜の販売は一切いたしておりません。

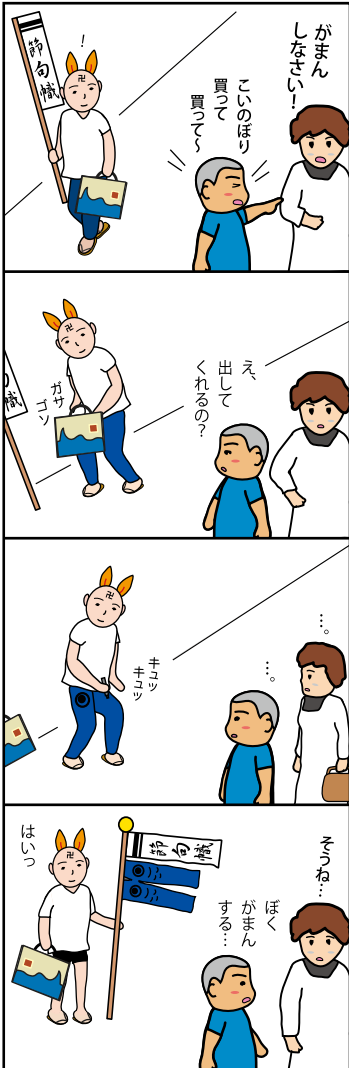
# 講座「今東光『悪名』のアサクない話」&映像に見る八尾「悪名」

旧植田家住宅では、八尾に縁のある作家・

今東光を取り上げた講座を毎年シリーズで行なっている。今回は、今東光の作品の中でもとくに人気が高く、八尾のイメージを全国的に広めた『悪名』をテーマに、講座「今東光『悪名』のアサクない話」を、三月二十三日（日）に座敷で開催した。講座は、本シリーズでもおなじみの伊東健氏（今東光を語る会）に語って頂き、「悪名」の小説・映画について分かる作品の読み直し・見直しや徹底したガイドによって、まさに「悪名」づくしの九〇分となった。

毎回講座には、老若男女問わず、多くの参加者が集まるが、今回は参加者の約八割が男

## マンジークン 安富士 暁



性という珍しい回となった。八尾における「悪名」人気は男性に支えられていることを感じた。また、講座の冒頭で伊東氏は、「悪名」を知っている人の多くは映画のほうからで、小説はあまり知らないのではないかという指摘をされました。そのような人のため、本講座では、作品の背景から小説の概要について解説され、その中で、今東光の人物像や広い人間関係にも迫り、作品だけでなく作家の内側にもふれた。

今東光の作品の登場人物は、多くにそのモデルが実在するという話は、「悪名」においても見ることができる。講座では、お馴染みの主人公・八尾の朝吉をはじめ、その他の登



超満員の講座の様子



映像に見る八尾

場人物のモデル問題にふれた。また、諸作品における朝吉の名前の表記「朝」と「浅」の使い分けに関する分析も興味深く、小説を読んでみたくなるほどであった。

最後は、参加者お待ちかねの映画「悪名」の徹底ガイドということで、シリーズ十五作品の概要と見所を紹介された。一部動画や静止画も用いられ、より詳しく、魅力たっぷりに「悪名」とさらに「八尾」の良さが伝えられた。悪名を解き明かす本講座を通して、その人気の秘密について知ることができ、深く面白世界を堪能した。

同日、閉館後の旧植田家では、講座と連動した企画「八尾再発見！映像に見る八尾」を開催。伊東氏に再び講師をお願いし、参加者十一名とともに、ここでは映画「悪名」をさらに掘り下げて鑑賞した。講座の参加者は、また違った「悪名」の世界に触れることができたのではないだろうか。

（安藤亮）

## 落穂拾い

## ― 今東光の董風 ― (十四)

文・伊東健

今年の六月十二日から約一カ月にわたってブラジルで開催されるサッカーのFIFAワールドカップは、同地では六十四年ぶりの大会だそうですが、五十三年前の昭和三十六年(一九六一)の十一月に、今東光はブラジルに旅立ち、書いた小説があります。連載が完結し、昭和三十八年(一九六三)二月十五日に文藝春秋新社より上梓された単行本の「あとがき」に、その時の状況を書き記しています。

長篇の約束をもつて一九六一年冬十一月、南米旅行に立った僕はブラジルの旧都リオ・デ・ジャネイロの近郊コバカバアナ海水浴場のホテルで第一回分を執筆した。ホテルの二十三階の窓から脚下を見ると飽くまで紺碧の海と白い砂が見え、世界各国の男女が裸で朝から波と戯れているのが眺められ

た。僕は徹夜をして五十枚を一気に書き上げ、同行の川島君と石川君と三人で爽快な海辺の散歩を試みたのだ。(後略)

東光がブラジルから送った小説の第一回目は、以下のような文章で始まります。

八尾市西郷のあたりには戦禍をまぬかれた古風な家並みが残っている。屋根は本瓦葺で、剥けてはいるが紅檜格子造りで、昔ながらの面影をしのぶことが出来るのだ。そんな町並みを通り抜けると、ぼつかり青空が見え、その下に共同墓地の一劃が展開する。

物好きな人がそのあたりに杖を曳いたら、雑草の中に埋れた一基の風変りな墓を見出すだろう。八尾の郷土史家西岡三四郎君に案内された時の話では、子供の頃墓地に遊びに行ったものだが石塔の間にはさまれて一寸見出し難く、従って何人も気付かなかつたということだ。(後略)

旅先とは思えない八尾づくしの冒頭に驚きますが、この墓碑には、Nを逆字にした

MANTIOと文字が彫られており、東光は河内のキリシタン墓碑に着目した小説を書き始めたのです。そのタイトルは「生きるマンシヨ」。昭和三十六年(一九六一)年『文藝春秋』一月号より連載が開始されました。

先の「あとがき」の続きに、東光はこんなことも記しています。

僕はリオでこの小説を書きながら吾が書齋を河内国からリオに移したに過ぎない感じがしたのだ。

信長・秀吉が活躍する戦国史を河内の地方史から描こうとする野心作には、NHKの大河ドラマで話題の軍師・官兵衛も登場します。

と、ここで紙数が尽きました。続きは次回で。



【2014年5月～7月】

# 旧植田家住宅のご案内

## 今後の展示・企画

※毎月第1土曜日は「河内木綿体験(5名限定)」  
// 第3日曜日は「むかし遊びの日」を開催

### 展示

- ◎3月6日(木)～5月18日(日)  
企画展「八尾の鉄道」
- ◎5月21日(水)～6月30日(月)  
通常展「大和川付替え関連展示」
- ◎7月4日(金)～8月31日(日)  
企画展「WAO!和本～植田家の書籍～」

展示、イベント等のお知らせは  
ホームページもご覧ください  
<http://kyu-uedakejutaku.jp/>

### 企画

- ◎5月 11日(日) 旧大和川を歩く～ぶらり玉串川編 Part2～
- ◎6月 1日(日) 連続講座「紙～かみ～ ①紙すき体験(予定)」  
28日(土) 八尾再発見・文学に見る八尾  
「やぁ!おお!図書館の話」(講師:八尾図書館職員)
- ◎7月 6日(日) 連続講座「紙～かみ～ ②和本作り体験(予定)」  
12日(土) 講座「今東光と八尾」(講師:伊東 健氏)  
21日(祝) ギャラリートーク(学芸員による展示解説)

(詳しくはお問い合わせください)

## 休館日カレンダー

■ = 休館日

□ = イベント開催日

5 May

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

6 June

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

7 July

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

●開館時間:午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

●休館日:火曜日・祝日の翌日・年末年始  
(詳しくは休館日カレンダーをご覧ください)

●入館料:一般200円(団体20人以上で100円)  
高校・大学生100円(団体50円)  
※中学生以下、身体障がい者手帳等の所持者  
および介助者は無料

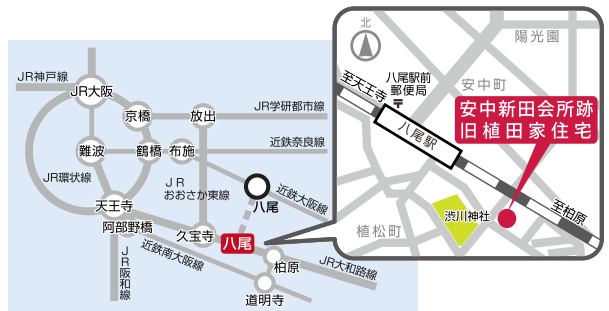
●お問い合わせ

〒581-0084 八尾市植松町1-1-25

TEL/FAX:072-992-5311

E-mail:info@kyu-uedakejutaku.jp

※当施設には駐車場はありません。車での来館はご遠慮ください。



◇JR大和路線「八尾」駅下車、南出口より東へ徒歩約3分

◇近鉄大和線「八尾」駅から近鉄バス藤井寺駅前行

JR八尾駅前バス停下車、南東へ徒歩約6分



# これからの社会に必要な「しくみ」と 「人の居場所」をつくる活動を行っています。

私たちは「社会が豊かになることによって、私たちも豊かになれる」という信念のもと、「新しいキャリア観をつくる」「中小企業のソーシャル化」「生物多様性」「地域を元気にする」をキーワードに、これからの社会に必要な「しくみ」と「人の居場所」をつくる活動を行っています。本業を通じた社会貢献をお考えの企業さま、持続可能な社会をつくるために何かしたいとお考えの行政・地域団体など各種事業体のみなさま、お気軽にお問い合わせください。



事例 :no.007  
若者の「働く」価値観を変革する  
ミライ企業プロジェクト

このプロジェクトは、ミライ志向のある企業を広く社会に伝え、ミライを担う若者の「働く」価値観を変革することで、より良い社会(=ミライ)を共に創造するイノベーション・プラットフォームです。株式会社シーズクリエイト、NPO法人JAE、株式会社PRリンクの3社を中心に協業を進め、今後キャリア教育事業や、採用事業、コンサルティング事業などを展開していきます。



NEWS 5月2日、採用サイト「ミライノideai」がオープンします！  
□ <http://mirainodeai.net>



事例 :no.008  
「八尾のものづくり 風土 人々を見つめなおす」プロジェクト  
YAOLA

私たちシーズクリエイトは八尾での活動を通して、たくさんの方にお世話になってきました。その出会いの中で、八尾にはまだまだ知られていない魅力がたくさんあることに気づき、そんな隠れた“本当の価値”を伝えていきたいと思うようになりました。八尾の可能性を広げる新しい取り組みが今、はじまります。



□ <http://yaola.jp>

リレー  
コラム

## 私たちと、八尾の街。

地域の人とともに、60年以上も  
前からにぎわい続けている歴史ある商店街

近鉄八尾駅から歩いてすぐ。今年で62周年を迎えるファミリーロードの佐倉さんにお話を聞きました。

「昔も今も、地域の方のおかげで商売をさせてもらっているという気持ちは変わりません。そして、この地域には大信寺や常光寺、八尾天満宮などがあり、そういう歴史資源との関係性も大切にしています。例えば、毎月11日と27日に行っている「お逮夜市」。ずっと昔は久宝寺の願正寺から大信寺まで、ずら～と露店が並んでいたそうで、今でもこの日限定のお買い得商品には行列ができることもあります。他にも毎年夏に行っている「わんぱくちっ子カーニバル」は始めてから20年以上たち、昔に参加していた子どもたちが大人になって、今ではその子どもたちが参加しているかも。さらに地域の小中学生の社会見学や職業体験も受け入れたりと、将来の子どもたちへこの商店街を伝え、引き継ぐことにも力を入れています。普段は通り過ぎていくかもしれませんが、一度、ゆっくり歩いてみてください。店主と話すことで、お得な情報が聞けたり、そのときだけのお買い得品に出会ったり、また来たくなるような商店街の魅力が見つかると思います。」  
話の中で佐倉さんがおっしゃった「地域の人がある限り、商店街としてやっていく」という言葉がとても印象に残っていて、この一言に、これからの地域の在り方や生き方のヒントがあるような気がしました。

取材協力：ファミリーロード 理事 佐倉 慎一さん ファミリーロード公式HP：<http://www.family-r.com>



## いっしょにつくる、八尾想いプロジェクト。

私たちとあなたも始めてみませんか？

このプロジェクトは、私どもの本業を通じた「社会への還元」を行う活動として実施します。このプロジェクトに共感いただき、ご発注いただいたお仕事で得る、売上金の一部を「八尾を想うプロジェクト」へ支援金として還元する仕組みです。

『地域を元気にする活動に参加したい』もしその様なことをお考えであれば、私たちとまずは始めてみませんか？

プロジェクトの詳細はこちらから  
[www.seeds-c.co.jp/campaign/yaoomoi](http://www.seeds-c.co.jp/campaign/yaoomoi)

お問合せ CSR室(直通) 06-4801-8200 平日 11:00-17:00 (土日祝を除く)